

# 第1学年国語科学習指導案



平成28年10月28日(金)5校時  
武蔵村山市立第三小学校  
第1学年3組29名  
教諭 野村 美里

**研究主題** 「人との関わりを大切にし、豊かに表現できる児童の育成」  
～グローバル人材育成に向けたオリンピック・パラリンピック教育の充実～

1 単元名 「ほんはともだち むかしばなしが いっぱい」

## 2 単元の目標

日本や外国の昔話を読んだり、読み聞かせを聞いたりして、昔話を紹介することができる。

## 3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
日本や外国の昔話を楽しみ、 読みたい本を進んで自分で探 して読もうとしている。	いろいろな国の昔話を読み、自分の経験 や読書体験と結び付けて、それぞれの昔 話を紹介している。	昔話のおもしろさや語り 口調、言い回しに親しんで いる。

## 4 指導にあたって

### (1) 単元について

本単元は、下記に示す小学校学習指導要領国語科の「C読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導事項に基づいて設定した。

### C読むこと

- (1) オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、話し合うこと。
- カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

### 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

ア(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

今日まで読み継がれている日本や世界の昔話には、弱者が機知を働かせて強者を負かす痛快な話や、無欲で善良な者が結局は幸せになる報恩譚、魔法使いや妖精が登場する奇想天外な話など、楽しくて魅力的な話が数多い。

第1次では、児童に昔話の絵本を読み聞かせして、おもしろい話にたくさん出会わせることで、「本を読むことは楽しい」「自分でも読んでみよう」という自発的な読書意欲の向上を図る。そして、場面絵に注目させ、日本の話であっても現代と時代が違うことや、外国と日本では「着ている服や住んでいる家が違う」など、国によって生活様式や風習が異なることに気付かせる。「どこの国だろう」「この国のことをもっと知りたい」という、いろいろな国の文化に対する興味関心を喚起する。昔話を通して世界にはいろいろな国があり、それぞれの国にそれぞれの文化があるという、1年生の発達段階に応じた

異文化理解と異文化を尊重する素地を養っていききたい。

第2次では、自分で友達に紹介したい昔話を決め、どこの国の話か調べ、お話の好きなどころなどを紹介カードにまとめる。

第3次では、紹介カードをもとにまず、グループで紹介し合う。さらにグループで代表を選び、代表者が全体に向けて発表する。友達に紹介する目的をもって、調べまとめたり、相手にお話のおもしろさを伝えるために分かりやすく発表したりする活動を通して、プレゼンテーションの力を養うことができると考える。紹介した昔話の国は班毎の世界地図に貼っていき、視覚的に捉えられるようにする。紹介カードも掲示して活用する。世界地図に表現することで、昔話は日本だけではなく、いろいろな国にあるということを視覚的に分かるようにする。この活動は、シールが貼られている国には「どのような話があるのだろう」と興味を抱いたり、シールがない国には「どのような話があるのかな。」と探す意欲がわいたりすることをねらっている。

## (2) 児童について

本学級の児童は、1学期に学校図書館の利用法を学んでいる。年間150冊の読書の記録を目指して、休み時間を図書室で過ごしたり、教室で学級文庫の本を進んで読んだり、読書活動を楽しむことのできる児童が多い。読み聞かせは教員の他、司書教諭、保護者ボランティアや図書委員会の児童（読書旬間期間）が実施する機会があり、いずれも楽しんで聞いている。

国際理解に関しては、1学期に全校で「1班1国」の取り組みを行い、生活班で所定の国旗を貼り絵で製作する活動を経験した。「この国、知っているよ」「色が似ている国旗がある」などの発言が聞かれた。9月に行われた留学生交流会では、外国の方々をおもてなししたいと、英語の歌「Country Road」の練習に毎朝取り組んだり、飾りつけるための輪飾りを製作したりした。当日も様々な国のジャンケンが異なること、食べ物の違いなどを知り、児童の世界の国々への関心はますます高まってきている。

また、児童は国語「おむすびころりん」「おおきなかぶ」で昔話に触れてきている。その際に、挿絵の服装の違いや「むかしむかし」という昔話特有の言い回しを楽しむことができた。

多くの児童は、読書や外国への興味・関心をもつことができている。一方で、考え方の理由など自分の考えを言葉や文章でどのように表現していいのかわからない児童や自分の考えの整理がつかず、話をするときに何度も同じ内容を繰り返す児童も多い。自分たちの考えを楽しく表現することができるように、活動の見通しをもたせ、段階を踏んで活動を展開し、自信をもたせるようにしていきたい。

## (3) 教材について

本時では、児童が選んだ昔話を友達に紹介し、どこの国の昔話なのかを世界地図にシールで表す活動を行う。友達の前で自分の考えを発表するのが苦手とする児童やどのように言えばいいのかわからない児童が想定される。そのため、児童に話型を用意すると、紹介しなければならない事柄（昔話の本の題名、どこの国の話なのか）を話しやすくさせることができると考えた。また、友達が紹介した本に対して自分が読みたいかどうかを考えさせるワークシートを取り入れることで、ただ聞くだけではなく読書活動に興味を向けさせることができるようにする。友達の紹介を受けて、自分も読んでみたいという読書活動への意欲を期待している。

## 5 研究主題に迫る手だて

### (1) 研究仮説

〔仮説1〕オリンピック・パラリンピック教育の視点から授業の充実を図ることが、児童の視野を広げ、グローバルな社会を生きる人材となる素地を養うことに繋がるであろう。

〔仮説2〕児童一人一人が分かる授業を展開するために授業作りに授業のユニバーサルデザイン化の手法を取り入れ、ねらいの達成から逆算した授業作りを行えば、児童の学習意欲や主体的に学ぶ態度、豊かな表現力を養うことができるであろう。

### (2) 目指す児童像

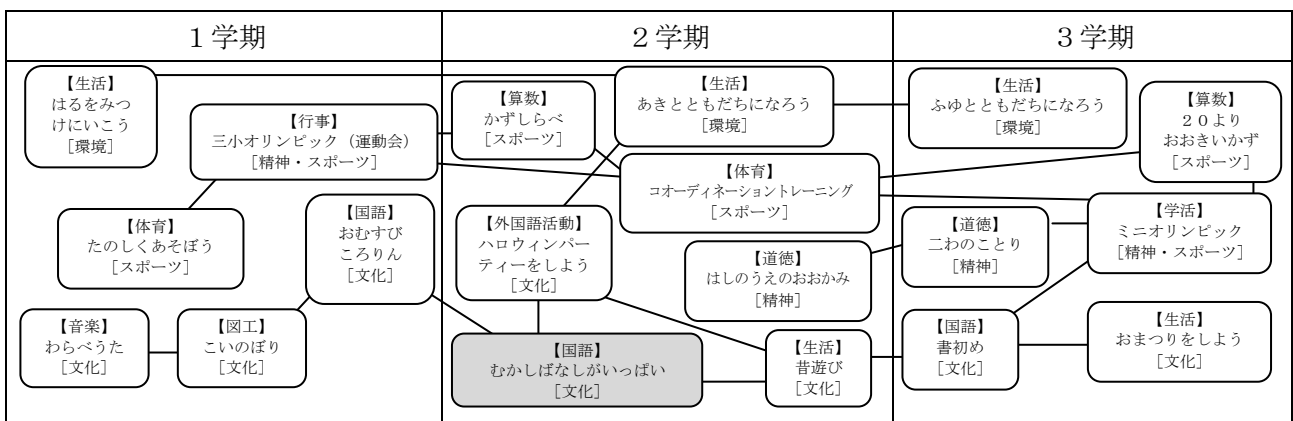
高学年	自他のよさを認め、主体的に相手と関わり合いながら、表現活動を工夫したり、自己の最善を尽くしたりすることができる児童。
中学年	自他のよさを感じ、相手との関わり合いを通して、目標に向かって、主体的に表現できる児童。
低学年	自分のよさを感じ、相手との関わりを大切に、楽しく表現することができる児童。

### (3) 本単元におけるオリンピック・パラリンピック教育理念との関連

重点的に育成する五つの資質		4つのテーマ×4つのアクション（本時）
豊かな国際感覚	英語力を身に付ける コミュニケーションを図ろうとする意欲 世界の多様性を受け入れる力	文化×学ぶ

### (4) 他単元及び他教科との関連（他教科・他領域や日常的な指導等との関連）

低学年の目指す児童像「自分のよさを感じ、相手との関わりを大切に、楽しく表現することができる児童」の実現ため、この単元の学習は、下表のような教科横断的なオリンピック・パラリンピック教育の取り組みの一つとする。



1 学期は、図工でのこいのぼりづくりや音楽でのわらべうたなどの活動を通して、日本の伝統的文化を学んできた。また、全校活動として取り組んだ「1 班 1 国旗」や音楽の鑑賞を通して、外国のことについて知る機会も多くあった。リオオリンピックが開催されたこともあり、夏休みの宿題である夏休み新聞では「オリンピックをみたよ」の記事に取り組んだ。

2 学期は、リオオリンピックでみた外国への興味関心を高め、理解を深めるために、国語で日本や外国の昔話を学習し、自分で決めた昔話の題名の紹介とどこの国の話なのかを世界地図に表す活動を設定している。そして、生活科で日本の昔遊びを体験したり、外国語活動で外国の行事について学習・体験

をしたりすることを通して、日本の伝統文化や国際理解をさらに深めていきたい。そして、昔話で作成した世界地図はオリンピック・パラリンピックの参加国や開催国と結び付けて活用していく。地図を用いた活動を取り入れることで、世界中の人がオリンピック・パラリンピックに参加しているという認識と、自分たちもそのうちの一人であるという自覚をもたせていきたい。

3学期には、学活でミニオリンピックを設定している。オリンピック・パラリンピック精神に関する学習を中心にオリンピック・パラリンピックをより身近に感じられる活動にしていきたい。

(5) 本時の指導におけるユニバーサルデザインの視点について

本時の授業計画の組み立て（ねらいの達成から逆算）

授業展開	活動の様子	授業のユニバーサルデザイン視点
ねらいの達成 ↓	選んだ昔話を友達に紹介する。	○話型が決まった紹介カードを使用することで、紹介しやすくさせる。【焦点化】
展開前半 ↓	紹介の仕方を学習する。	○紹介の仕方のデモンストレーションを教師が見せ、どのように紹介をすればいいのか考えさせる。【視覚化】【共有化】
導入	本時の課題を確認し、授業の見通しをもつ。	○本時の活動の流れを掲示し、授業の見通しをもたせる。 【視覚化】【時間の構造化】
個別支援	紹介することが苦手。	○話型カードをもとに教師や友達と一緒に読む。

6 学習過程（指導計画）（全5時間扱い）

次	時	学習のねらい	学習活動・予想される児童の考え	評価
1	1	日本の昔話の特徴に気付き、同じ仲間を選ぶ。	教科書の絵を見ながら、知っていたり読んでみたいと思ったりする昔話を出し合う。 ・つるのおんがえし 読み聞かせから、絵や話から服装等の違いに気付く。	・昔話に興味をもち、楽しみながら聞くことができる。 【関心・意欲・態度】 ・昔話の語り口調や言い回し、家や着物など現代との違いを感じることができる。【言語】
	2	昔話を読んで、日本と違うところを見つける。	絵本の読み聞かせを聞いて、その国の服装、家屋、食べ物など日本と違うところを見つけて、話し合う。 ・頭にターバン巻いている。	・自分の経験や読書体験と結び付けて昔話を読み、その国の特徴に気付いている。 【読む】
2	1	昔話の紹介カードの下書きを書く。	読書活動を通して、自分が紹介したい昔話を選び、どこの国の話なのかを調べ、紹介カードを書く。 ・ヘンゼルとグレーテルは、ドイツの話。 ・おかしの家が出てくるところが好き。	・日本や外国の昔話を楽しみ、紹介したい本を進んで自分で探して読もうとしている。 【関心・意欲・態度】 ・昔話の語り口調や言い回し、家や着物など現代との違いを感じることができる。【言語】

	2	昔話の紹介カードを完成させ、紹介の練習をする。	紹介カードを完成させ、練習をする。 ・わたしが紹介する昔話は、～です。これは、～の国の話です。わたしは～がすきです。	・選んだ昔話の紹介カードを完成させ、紹介カードをもとに紹介の練習している。【読む】
3	1 本時	選んだ昔話を友達に紹介する。	自分で選んだ昔話をグループの友達に紹介し、どこの国の昔話なのか地図に表す。  グループの代表1人が全体の前で紹介する。	・自分の選んだ昔話を友達に紹介している。【読む】

## 7 本時の学習（5 / 5時間）

### (1) 本時の目標

- ・自分の選んだ昔話を友達に紹介している。【読む】

### (2) 展開

過程	学習活動と予想される反応 ・予想される反応	●指導上の留意点 ◆個別の配慮 ◎評価【観点】(方法)	☆ユニバーサルデザインの視点
導入 5分	1 本時のめあてを知る。 ○前時までの流れを振り返り、学習を想起させる。 ○本時のめあてを知る。  えらんだむかしばなしを      ともだちに      しょうかいしよう  ○本時の活動の流れを確認する。	●単元の学習活動を提示する。	【視覚化】 【時間の構造化】
展開 30分	2 紹介の仕方を学習する。 ○教師のデモンストレーションを見て、紹介の仕方を考える。 ・声の大きさに気をつける。 ・カードを友達に見せる。 ・はっきりと話す。  3 グループの友達に、紹介する。 ○紹介カードを見せながら、グループの友達に紹介する。 ○友達の紹介を聞いて、読んでみたいかどうか印をつける。  ○グループの中で代表を決める。	●紹介の仕方を見せ、どうしたら発表がよりよくなるのか考えさせる。  ●グループの形を作らせる。 ●聞く人用のワークシートを配布する。 ●紹介した昔話の国のシールを貼る世界地図を配布する。 ●紹介したら、その国にシールを貼ることを確認する。 ●紹介する順番を提示する。 ●グループ代表の子を決める観点を提示する。 ◆紹介カードを見せながら一緒に読む。	【焦点化】 【共有化】  【視覚化】 【共有化】

	4 全体に紹介する。 ○グループの代表が昔話を全体に紹介する。	●机の隊形を元に戻す。 ●発表者を「みる」ようにさせる。	【共有化】
まとめ 10分	5 各班の世界地図を比較し、世界にはたくさんの昔話があることを確認する。	●各班の世界地図を黒板に掲示する。 ●廊下に貼ってある世界地図にもシールを貼ることを伝え、各クラスとの比較から昔話への興味を高める。	【視覚化】 【共有化】

## 8 板書計画

世界地図	世界地図	<ul style="list-style-type: none"> <li>● だいひょうのきめるかた</li> <li>① よみたいマークがおおい。</li> <li>② しょうかいのしかたが</li> </ul> じょうずだな、とおもう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● しょうかいするときのポイント</li> <li>・ こえの大きさ</li> <li>・ カードをみせる。</li> <li>・ はっきりとはなす。</li> </ul>	学習の流れ	むかしばなしがいっぱい えらんだむかしばなしを ともだちにしょうかいしよう
世界地図	世界地図			本時の流れ	
世界地図	世界地図				